

旅客自動車運送事業



代表取締役 遠藤 竜太郎

登壇者名	後藤 麻衣
役職	企画課長
連絡先	0244-23-2964



東北アクセス株式会社

設立 (西暦)	1999年3月
本社所在地	福島県南相馬市原町区深野字庚塚346-1
会社HP	https://touhoku-access.com/index.php
事業プラン名	個人認証システムを用いたコロナ時代の交通システム構築実証事業
事業プラン概要	<p>本事業のゴールは、双葉町の復興まちづくりに向けた次世代移動サービスを構築することです。</p> <ul style="list-style-type: none">・第1段階：管理区域内で働く人々の、区域外の拠点から区域内の基地までの通勤を、現在のマイカー移動から認証システム付きのバス移動へ転換することによって①環境負荷低減②入退域管理にかかる時間短縮の2点から貢献します。・第2段階：上記事業で得たデータを活かし、22年春に予定される双葉町での居住開始と合わせた最適な公共交通網を構築します。 <p>上記事業の実現に向けて、本プログラムでは、第1段階における本システムの効果実証を行うための、試作品を作ります。</p>
福島/本プログラム にかける想い	弊社の事業定義である「公共インフラを通じた まちづくり支援業」という信念のもと、本プログラムを通して、双葉町・大熊町が目指すCO2排出量ゼロの「ノーカーボンシティ」に移動サービスから貢献し、環境にやさしいまちづくり、働きやすいまちづくりの実現に向けた一歩を踏み出したいと思っています。
イベントにご参加 いただく方への一言	本システムの利便性・安全性を実証し、実用化できれば、双葉町のみならず、全国の廃炉決定・検討地区に対しても、本サービスによる価値提供ができると考えております。是非、環境省・地方自治体の方、各電力会社の方々へ、本事業へのご賛同とご協力を頂ければと思います。

原発地域における 新たな移動サービスの構築



2021/01/15

東北アクセス株式会社





東北アクセスの事業定義

まちづくり支援業



経営理念

私たちは、笑顔とまごころで暮らしの夢を提供します。

お客さまのさまざまな目的の為にバスを利用して頂いております。

私たちは、『暮らしの空間移動』を創造し安全・安心で快適な空間をプロデュースします。

私たちは、地域の安全と環境を守り人々が安心して暮らせるまちづくりに貢献します。

私たちは、地域の人々と安全に暮らせる町づくりを考えながら、

環境問題に積極的に取り組み人々が元気に暮らせる社会を目指します。

私たちは、共に助け合い幸せに向かって成長します。

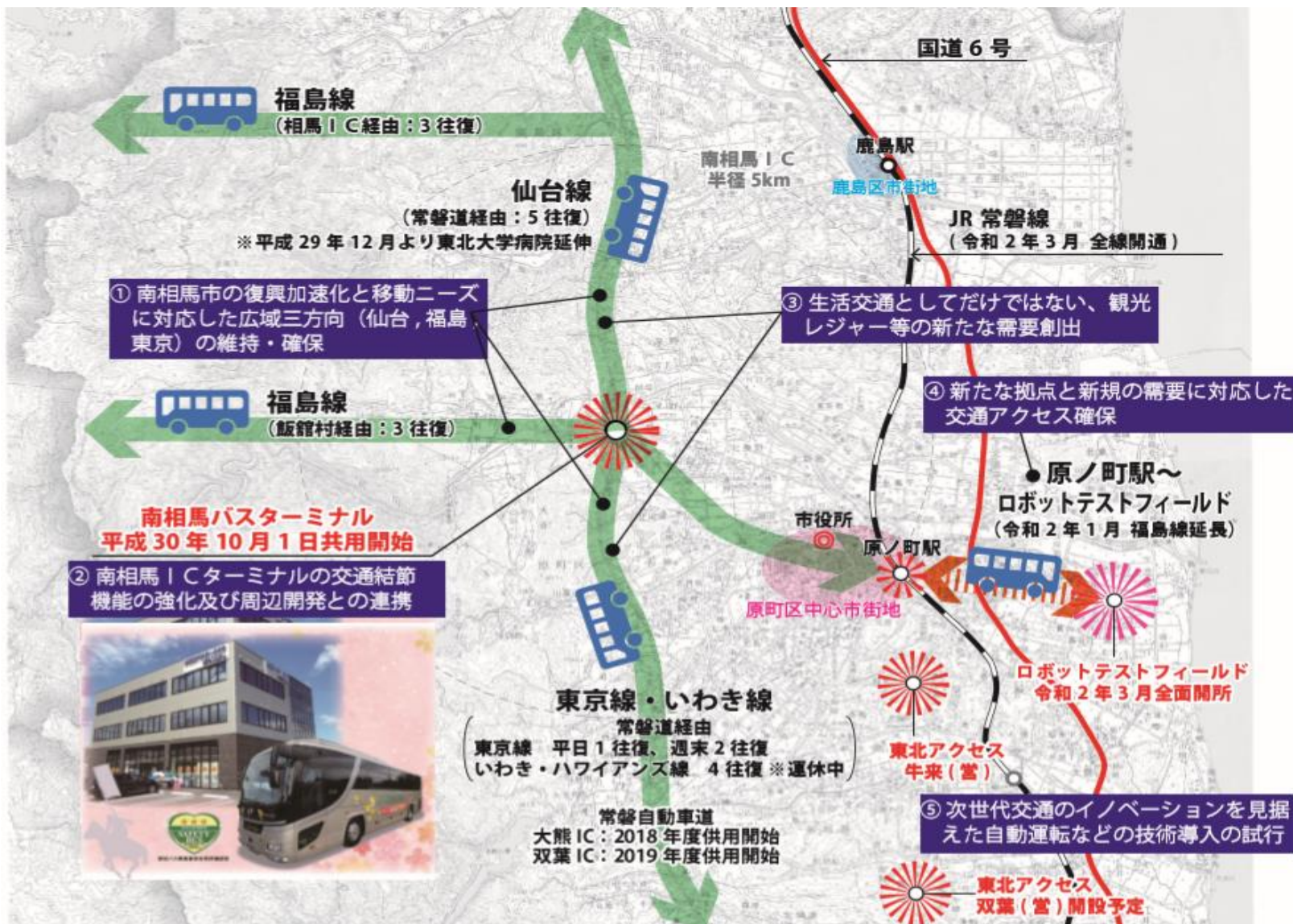
私たちは、みんなが協力し合い、喜びと感動を共有し、幸せをわかちあう人間を目指します。

事業定義

まちづくり支援事業

商号	東北アクセス株式会社
代表者	遠藤 竜太郎
設立	平成11年3月（旧 有限会社 はらまち旅行） ※平成25年6月1日に「東北アクセス株式会社」に改名
営業時間	9:00～18:00 年中無休
資本金	1,800万円
従業員数	70名
車両台数	大型 36台 中型 9台 小型 16台
事業内容	一般貸切旅客自動車運送事業東北旅一第 362号 一般乗合旅客自動車運送事業東北旅一第717号 福島県知事登録旅行業第 2-243号
営業区分	福島県、宮城県
系統数	6系統
総走行系統距離	257.3km

東日本大震災から 福島地域の復興と共に歩んできました



東日本大震災から 福島地域の復興と共に歩んできました

平成23年3月

東日本大震災の影響でJR常磐線不通となり、相馬市・南相馬市の依頼にて乗合事業による【南相馬・相馬～仙台】線を1日6往復から運行開始

※平成29年4月より常磐道【南相馬・山元】間が開通により全線高速利用、最大12往復、東北大学病院まで延長。現在5往復まで減便
阿武隈急行不通の為、【角田～仙台駅】 【丸森～仙台駅】 代替バス運行

※平成29年4月【丸森・角田・山元～仙台東北大学病院】を乗合事業による許可により運行開始。

平成24年4月

南相馬市民の要望により【南相馬・飯館～福島駅】線を1日6往復にて運行開始

※平成30年10月より3往復を【南相馬・相馬～福島駅】に変更。現在、飯館経由3往復。相馬経由3往復の計6往復にて運行。

平成29年12月

【南相馬～湯本インター・ハワイアンズ】を乗合事業許可により4往復にて運行開始。

※湯本ICにて新常磐・JR関東・東武の共同運行の東京線に接続が目的。現在は弊社、東京線【南相馬・双葉ライナー】運行開始により運

休中

令和元年7月

【南相馬・双葉ライナー】を乗合事業許可により平日1往復週末2往復にて運行開始。

令和元年12月

【南相馬・福島線】の一部の便を福島ロボットテストフィールドまで延長。

【原ノ町駅～RTF】間は200円の一律運賃と【貨客混載】によるお弁当の配送

令和2年10月

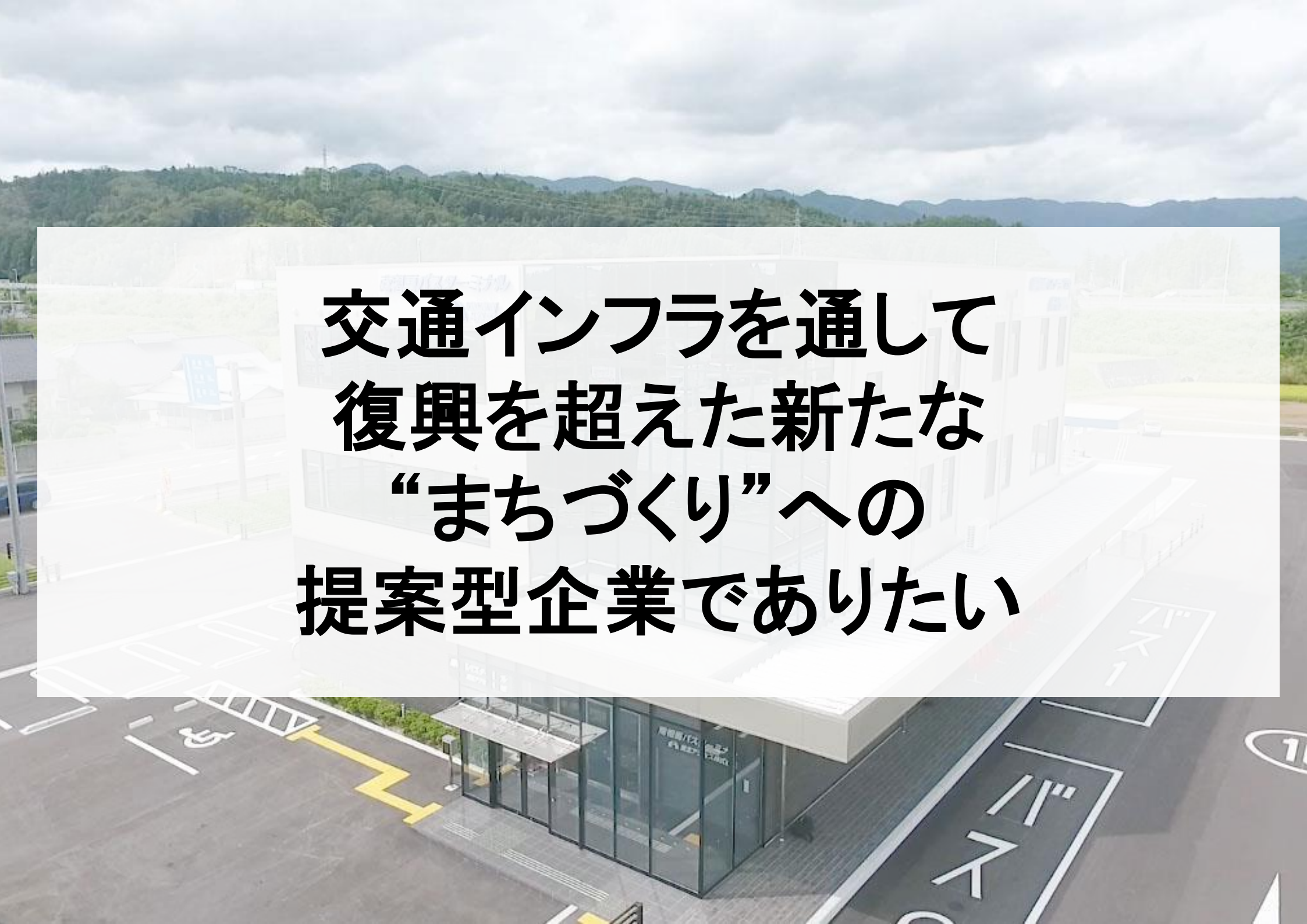
【双葉駅～東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センター】を運行開始

JR常磐線のダイヤに対応した発着時刻にて運行中

⑤ 次世代交通のイノベーションを見据え
新たな自動運転などの技術導入の試行

大熊 IC：2018 年度供用開始
双葉 IC：2019 年度供用開始

東北アクセス
双葉(宮)線(予定)



**交通インフラを通して
復興を超えた新たな
“まちづくり”への
提案型企業でありたい**

双葉町・大熊町が目指す CO2排出量ゼロの「ノーカーボンシティ」





2022年、双葉町の居住再開に向けて 移動サービスから貢献したい



しかし現在...
原発・減容化施設で働く方々の
通勤による渋滞・環境汚染



どうして渋滞・環境汚染が 発生してしまうのか…

【原因1】

3,000名の作業員が
マイカーで通勤



【原因2】

入場／退場時に
本人確認が必要



移動サービスの変革で解決

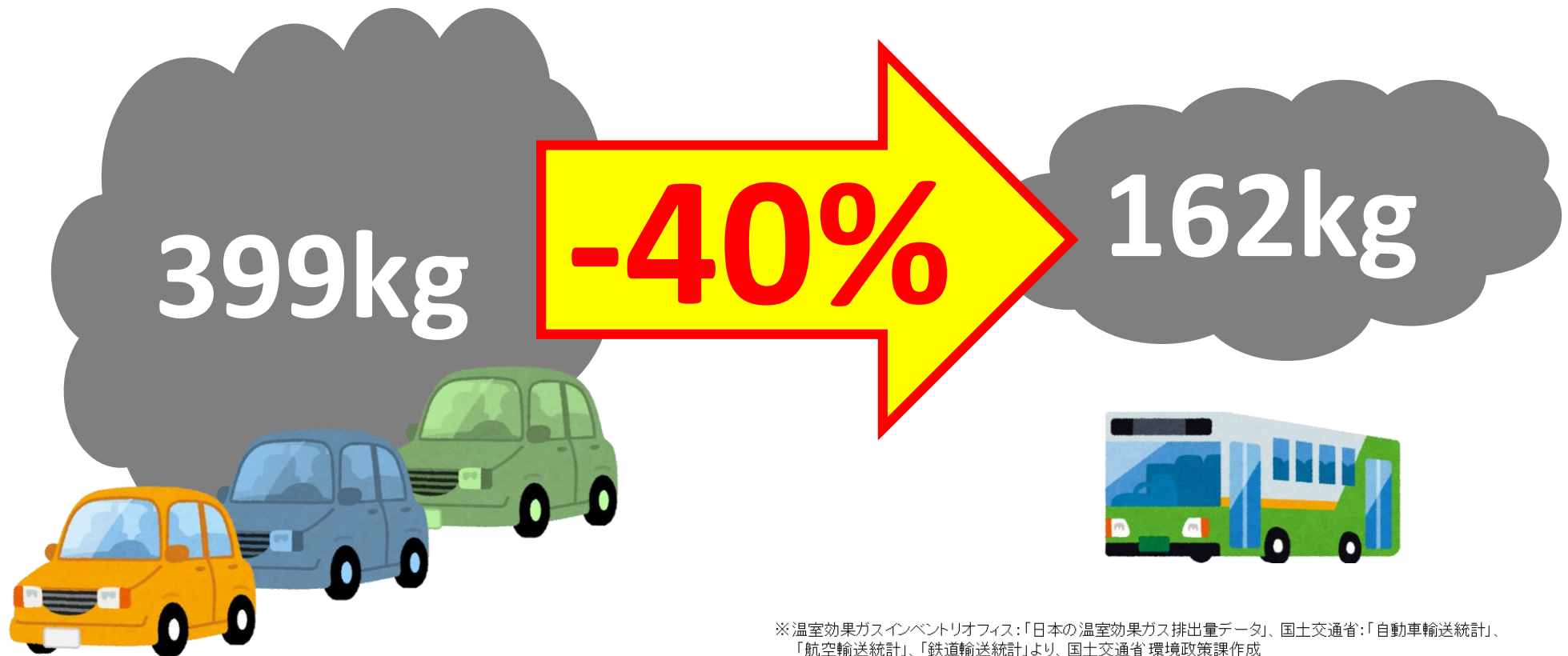


移動手段を
バス移動に転換

バス乗車時に
ウォークスルー
認証を実施

CO2排出量を削減

3,000人を1km輸送するのにかかるCO2



※温室効果ガスインベントリオフィス:「日本の温室効果ガス排出量データ」、国土交通省:「自動車輸送統計」、「航空輸送統計」、「鉄道輸送統計」より、国土交通省 環境政策課作成

CO2排出量を削減

電気バス・水素バスなら
排出量0も実現可能

本人確認作業の効率化

入退場時に警備員が
手作業で作業員1人ずつ
【許可証】【顔】【名簿】
確認している



本人確認作業の効率化



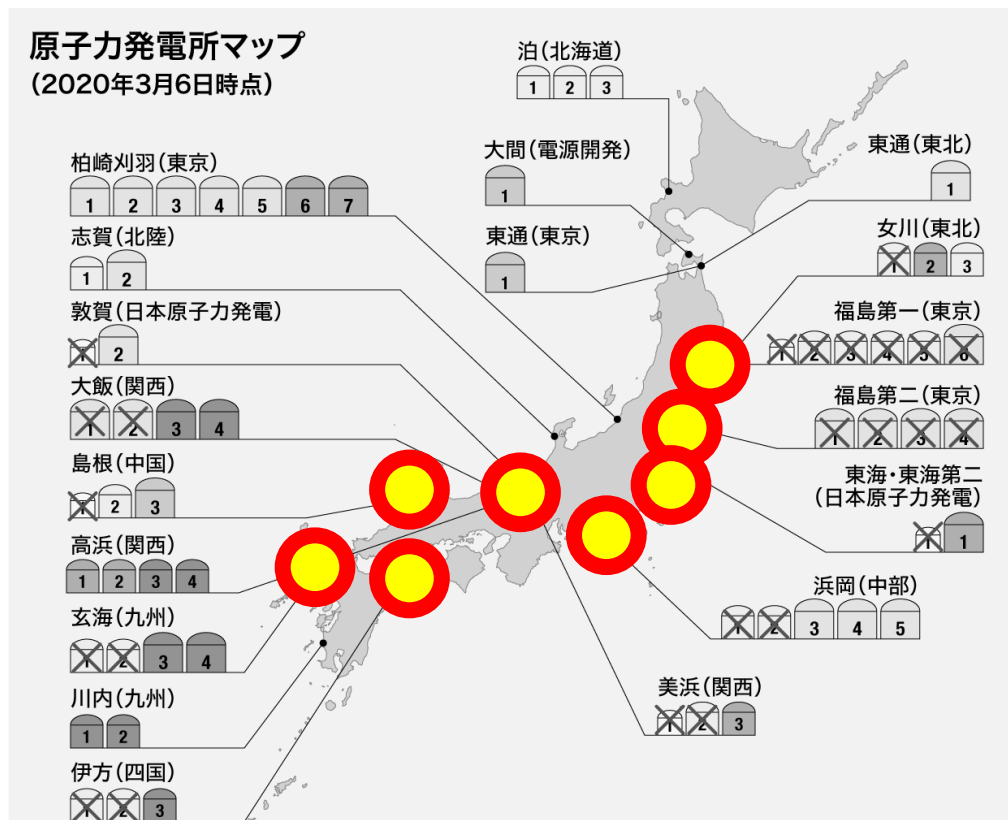
バスに乗る際、手をかざすだけ
ノンストップで入退場可能

環境にやさしい、まちづくり
働きやすい、まちづくり



いずれは住民向けサービスも展開し
住みやすい、まちづくり

双葉町で実用化、 いずれは全国のまちづくりへ



双葉町にてPoCを実現し
成果を全国の廃炉決定・
検討地区へ拡大

環境省・地方自治体の方々
各電力会社の方々へ
ご賛同とご協力を頂きたい